

# 山と博物館

第57巻 第3号 2012年3月25日

市立大町山岳博物館

## 「第二回山岳公募写真展」選考にあたって

菊地 哲男

この度の選考では、山岳写真の王道とも言える自ら山に登って撮影した作品だけでなく、山麓から仰ぎ見る作品にも一定の評価を与えたいと考えました。

対象山岳は大町市の北アルプスということから、槍ヶ岳をはじめ、たくさん山の山がその対象となっていたのですが、寄せられた作品

はアプローチが比較的簡単な小熊山周辺からの鹿島槍ヶ岳など特定の場所から特定の山に集中する傾向にありました。

そのような中で、金賞の菅原悦子さんの「三ッ岳とWレインボー」は、二重で虹がかかるという幸運に遭遇された場面的確なフレーミングにより、印象的な作品に仕上がっています。

惜しくも銀賞となった遠藤鷹一さんの「2011年初冠雪の鹿島槍ヶ岳」は新雪の鹿島槍ヶ岳と谷を埋める雲海がよくマッチしており、数多く寄せられた鹿島槍ヶ岳の作品の中では最も完成度が高かったと思います。

同じく銀賞の石川伸太郎さんの「アルプス遠望」は大町市霊園の桜越しに残雪の爺ヶ岳を遠望する作品で、満開の桜とたなびく雲がよいアクセントになっています。

銅賞にもなかなか良い作品が並びました。斎藤



【金賞】 「三ッ岳とWレインボー」 菅原 悦子

一夫さんの「針ノ木岳明け」を始めとしてどの作品もつと上位を狙える力がありました。燕岳と星を組み合わせた田淵典子さんの「星巡る夜」もシンプルな組み合わせですが、印象的な作品でした。さて、2011年は東日本大震災を始めたとして災害が多い年だったように思います。災害にあわれた方々には心よりお悔やみ申し上げます。時として自然は人間の想像を絶するような不幸をもたらしますが、一方で様々な恵みも与えてくれます。山岳写真はネイチャーフォトの原点であると言われていきます。古来より日本人と山との関係は深く、これからも人々の目が山を代表とする自然に向かうことを願っています。

(山岳フォトグラファー)

## 第二回 山岳公募写真展 北アルプス―美の探究

この度の企画展は、山岳博物館創立60周年、並びに大町市「山岳文化都市」宣言9周年を記念して、平成23年に「第2回山岳フォトコンテスト」と題し、公募が行われ、山岳フォトグラファー 菊地哲男氏によって選出された作品をご覧頂きます。応募総数は52名の方より合計211点の作品が寄せられました。

企画展では、応募されました52名全員の作品を、菊地氏により1点ずつ選んで展示させて頂きました。これらの作品の中から、18作品が各賞に選定されました。金賞・銀賞に輝きました3点につきましては、今後山岳博物館オフィシャルパンフレットの表紙に活用させて頂いたくほか、銅賞並びに入選作品におきましても、大町市の自然美を紹介するために観光パンフレット等に活用させて頂く予定です。

ここでは各賞に選出された方々に、作品のアピールポイントや撮影された場所からみたお勧めポイントを掲載いただきました。

なお山岳公募写真展は、平成24年3月3日(土)から4月15日(日)まで(※休館日は、月曜日と祝日の翌日)開催されますので、ご高覧くださいますようお願い申し上げます。

### 神頼みのシャッターチャンス

菅原 悦子 (表紙写真)

六月下旬、ブナ立尾根を登り、前烏帽子岳の頂きに立ち、山の神に、山の安全と傑作写真が撮れますようにとお祈りするのが私の最

初にすることです。虹の写真も、こうして何年も待ち続けた写真です。

夜から降っていた雨も明け方には小降りになり、カメラを持ち、ヘリポートへ向かい、ふと西の空を見ると、オレンジ色の空気に、大きな二重の虹が「早く私を写して」と言っているように・・・太陽が上がるにつれて、色をどんどん変えて行く。三十分位でしようか？ 夢中でシャッターを切っていました。このような綺麗な虹が出たのは、烏帽子岳で二十年あまり写真を撮り続けていて初めてです。烏帽子岳は、地塘があり、高山植物も豊富で、撮影地の宝庫です。

### アルプス遠望

撮影日記から

石川 伸太郎

撮影場所は、大町山岳博物館の横、北アルプスと桜の美しい場所です。この瞬間を残したいと思いと共に、撮影地には早朝「光と影を」求め、ポイントとなる所に三脚を置き、撮影の準備をしました。北アルプスの山が良く見え、初日は残念ながら

撮影出来ませんでした。

中一日を置いて再挑戦しました。できれば北アルプスの朝焼けを期待しましたが、残念ながら朝焼けにはなりませんでしたが、それでも、北アルプスの山は美しく、桜も美しく咲いていました。

山と桜を撮影する場合、遠近感をきちんとフィルムに取り込まなくてはなりません。撮影していると下の方から雲が出てきました。そこでフィルム補正を行い、その瞬間を夢中になつて時間の経過も忘れて、シャッターを押しました。

### 初冠雪の鹿島槍ヶ岳を撮って

遠藤 鷹一

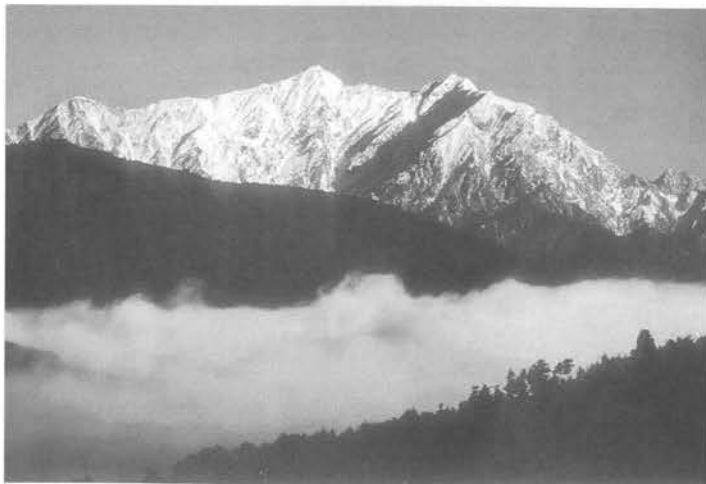
撮影時期は、里は稲刈りも終わり冬の準備に忙しい頃でした。

北アルプスの山々は終日ぐずつき、里からは山々の頂を見ることができず、山では雪が降っているようでした。しかし、天気予報では明日は晴れるとのことだったので、撮影をイメージして床につきました。

朝5時に起きて出かけました。予報どおり天気がよく、また霽がたなびいて絶好のロケーションでした。三日町トンネル手前付近を撮影ポイントとし、農具川沿いを北上しました。そして、分水付近で冠雪の鹿島槍ヶ岳の白と里山の黒と霽の白のバランスをとり、鉄塔が入らないように注意し、構図を定め撮影しました。



【銀賞】「アルプス遠望」 石川 伸太郎



【銀賞】「2011年 初冠雪の鹿島槍ヶ岳」 遠藤 鷹一

## 星瞬く山の景色を求めて

田淵 典子



【銅賞】「星巡る夜」 田淵 典子

## 初冬の静寂

林 有道

週末、天気が良いと体力作りを兼ねて、燕山荘周辺まで登ることのある私ですが、いつも、燕山荘周辺は朝景を撮影するカメラマンや登山客で賑わっているなあと感じていました。

しかし、撮影した11月23日の朝は、昨夜宿泊したであらうカメラマンが一人いるだけで、シーズン中の空気感もなく、朝焼けの移ろう穏やかな時間は寒さも忘れ堪能しました。



【銅賞】「針ノ木岳明ける」 福井 一夫

## 蓮華岳の印象

福井 一夫

撮影当日は、針ノ木小屋を夜明け前に出発し、蓮華岳の頂上で日の出を待つことにしました。

針ノ木岳が薄らと見え始め、やがて頂上に朝の光が射し、次いで稜線にも光が射し始めました。大町側からは雲が湧き上がり、絶好の撮影チャンスになりました。

蓮華岳は静かな山頂で、足元には高山植物の女王と呼ばれる可憐なコマクサの花が咲いています。また、北アルプスの眺望はすばらしく、北に後立山連峰、北西に剣・立山連峰、そして西に針ノ木岳、南西に薬師岳をはじめとする黒部源流の山々、南に穂高連峰が見渡せます。東には大町の町が眼下に広がり、時間が経つのを忘れてしまう山頂です。

## 「菜の花の高原」について

斉藤 一久



【銅賞】「菜の花の高原」 斉藤 一久

本作品の撮影地「中山高原」は、NHKの連続テレビ小説「おひさま」のロケ地として有名になりましたが、ゴールデン・ウィーク（GW）頃には菜の花が、晩夏の8月末頃には蕎麦の花が広大な畑一面に咲き、加えて条件が整えば北アルプスの展望が素晴らしい所で、私は糸魚川の実家への帰省の折は、度々寄り道をして撮影を続けています。

本作品は、2010年のGWに帰省中の一日、当地周辺に桜の撮影に出かけた折に立ち寄り、好条件に恵まれ、鮮やかに咲く菜の花と、残雪頂く爺ヶ岳と蓮華岳を五月の風にさざ波立つ幻の池越しに望むという、岳都大町の遅い春の風景を写しとめたものです。

私は山と星の風景を求めて写真を始めて3年ほどになります。北アルプスの稜線まで登り詰めると、夜は下界では見ることができない素晴らしい星空が見ることができず。

撮影地の燕山は360度の素晴らしいロケーションに恵まれ、燕山荘を拠点に小屋付近で安全に満天の星空を観測できる天体ファーンにはたまらない場所です。

燕山には毎年数度訪れていますが、季節を変えると山は様々な表情を見せてくれ、夜の空も夏の天の川や冬のオリオンと季節によって巡る星々も変わり、月の満ち欠けによっても表情を変え、その時一度きりの星景色を見せてくれます。そんな山の夜の景色をこれからも追い求めたいと思います。



【銅賞】「初冬の静寂」 林 有道



## 夏の野口五郎岳

山岸 明



【銅賞】「夏の野口五郎岳」 山岸 明

鷲羽岳の山頂からは、360度すべての方向に日本を代表する魅力的な山々を望むことができます。南から東にかけては、槍ヶ岳から表銀座コースの大山井岳、燕岳への稜線。西から北へかけては、黒部五郎岳、雲ノ平、薬師岳、水晶岳。そして、裏銀座コースの縦走路が続く先には、伸びやかな山容の野口五郎岳が鎮座しています。

野口五郎岳は、鷲羽岳と同じ2924メートルと、決して恥ずかしい高さではないのですが、その割には地味な存在です。

撮影は、午前中の涼やかな風を受けながら、ゆったりとした気分でせいたく眺めを満喫しているときです。気温の上昇とともにいつしか雲が湧きはじめ、生き物のように自在に高く大きく広がる真つ白な雲を従えた夏の野口五郎岳が存在感をアピールしているように思いました。

## 黎明槍ヶ岳

麻田 祐介



【入選】「黎明槍ヶ岳」 麻田 祐介

北アルプスの山々に晩秋の空気が感じられる頃、大天荘前で撮影しました。

早朝の気温はマイナス6℃で、体を丸めながら撮ったことを思い出します。

撮影の時間帯は、ご来光の直後で、槍ヶ岳から穂高岳の稜線が刻々と表情を変えるさま

を狙いました。空のグラデーションの素晴らしさや急峻な稜線を立体的に表現できたと思います。

ただ、雲が全く無い状況だったので、空を余り入れずに撮った結果、重い写真になってしまいました。

たが、槍ヶ岳下の白いネックレスのような雪渓がアクセントになったかなと思います。

この撮影場所からは他に、彼方からの御来光やライチョウの出現なども期待でき、見所が盛りだくさんなので、次は別の表情を狙いたいです。

## 偶然出会った唐沢岳

川上 満

春の風景や草花を探しながら車を、ゆつくりと走らせていると目に映ったのが、赤色のツツジです。

車を止め奥に入って行くと、目の前に唐沢岳が正面に飛び込んできました。「おお」と思い、構図を考え、本作品は4回シャッターを押したうちの一枚です。

手前の立ち木のトーンと赤色のツツジ、その向こうの林の奥に残雪の唐沢岳があります。撮影地は、大町ダム公園から葛温泉に行く道路T字路手前100メートルくらいの左側です。

【入選】「春の唐沢岳」 川上 満



## 自然と人が創る情景

草場 久仁子



【入選】「晩秋の里山と北アルプス」 草場 久仁子

都会の喧騒から逃れるように中央道をひた走り、安曇野に入ると神々しい北アルプスの山々が屏風のように眼前に飛び込んできます。

お花畑と残雪の美しいコントラストの夏山や無限の染料で染まる秋の山を楽しませてもらうと、来春までのお別れになり、私には眺めて楽しむ峰々に代わってしまいます。

新雪が山の頂に降りてきた朝、大好きな鹿島槍ヶ岳の双耳峰が翼を広げ、両脇に爺ヶ岳、五龍岳を従えて最も美しく見えるこの里にきました。

この里の人々は、春には満開の桜を愛で、夏には色とりどりの花々に囲まれ、秋には真つ赤なりんごを実らせ、いつも自然の恵みに感謝しながら山と語り暮らしています。

この朝も冬支度を急ぐ里人を見守るように柿の実越しに雪化粧した仁科三山が美しい情景を私に見せてくれました。

## 後立山、南方山稜の山

小島 輝夫

【入選】「針ノ岳への山稜」 小島 輝夫



山頂を目指して

寺尾 拓峰

また、百名山もなくマイナーな山なのか、静かな山行が楽しめるのもこの山域の特徴ではないでしょうか。

撮影地は赤沢岳山頂で、ここからは眼下の黒部湖を始めとして剱岳、立山、薬師岳と北アルプスの雄大な山々が見渡せ、展望が満喫できます。

そして、山頂から最低コルへ下ると針ノ木岳への登りとなり、標高差は330メートル程ですが、スバリ岳、針ノ木岳の山頂が徐々に標高を上げる稜線の彼方に仰ぎ見られ、やがて後立山連峰の最終峰、標高2821メートルの針ノ木岳に到達し、この後立山縦走の旅も終りとなります。



【入選】「山頂を目指して」 寺尾 拓峰

## 冬の星座

林 良一



【入選】「冬の星座」 林 良一

盛夏に混雑する燕岳も11月の小屋締め頃になると静かな山になります。小雪が舞う台戦尾根をゆつくりと登りながら今回の山行では初冬の燕岳、槍ヶ岳を撮影することは難しかなと思いました。

お寝めの松が見える地点では槍ヶ岳の頂をみる事ができましたが、山荘に着く頃には頂はすっかり黒雲の中に隠れ、夕景を撮影する頃には吹雪となりました。幸運なことに夜中にトイレに行ったとき、外に出てみると星が瞬いていました。

本作品はこのときに撮影したものです。

月明かりに雲海が湖の様に照らされ、槍ヶ岳に連なる山並みが「ようこそ」と言っているように感じられました。

## 道案内のブロッケン

荻野谷 泰伸



【入選】「道案内のブロッケン」 荻野谷 泰伸

日の出間際に霧が晴れ五龍岳に登る間が無く、白岳で御来光を撮りました。昇陽と共に雲海が動き始め、五龍岳や周りの峰々は見え隠れするようになりました。カメラを片付け小屋に戻ろうとした時、ゆく手にブロッケンが現れました。思わぬ現象に急いで三脚を立てました。

霧と光線の具合で、五龍岳をバックに三重に現れる彩環の中に動めく自影に、しばし見惚れました。道沿いに朝霧に光り輝く、イワギキョウの群落が美しく目に映りましたが、レンズを向ける余裕はありませんでした。

「もう少し強い光よ来い」との願いは叶いませんでしたが、感動のひとつを過ごすことができました。

## 種池のお花畑

山口 正美



【入選】「咲き揃うチングルマ」 山口 正美

劔岳や高山植物を撮りに、盛夏の種池平まで登りました。一番撮りたかったのは、劔岳に陽が沈む夕景でしたが、ガスに包まれてだめでした。しかし翌日は快晴で、劔岳や針ノ木岳のモルゲンロートを撮影することができました。そして、種池小屋に戻る途中、足下から広がるチングルマの大群落到出会いました。

撮影時は、花だけでは大群落の感じが出ないので、ローアングルにして岩小屋沢岳から針ノ木岳の山並みを入れ、大群落の広がりを感じられるように工夫しました。

岩小屋沢岳方面へ少し行くとキヌガサソウの大群落もあり、ちょうど満開でした。種池周辺は色々な種類の高山植物が見られる場所でもあり、劔岳、針ノ木岳等の展望も非常に優れた場所でもありました。

## ようやく春が

山田 一英



【入選】「ようやく春が」 山田 一英

信州の桜も四月に入ると咲きはじめ、北上し、五月の上旬のアルプスのふもとでは、残雪の北アルプス連峰と桜の共演に感動します。

撮影場所は、黒沢高原、大倉原の近くです。

この桜を見つめ、七、八年の歳月が過ぎ去りましたが、毎年通い続けてもなかなかよい撮影チャンスはありませんでした。

今年はそろそろいいかなと期待しながら行けば、桜はまだ二、三



【入選】「レンゲツツジの咲く頃」

山田 要子

## レンゲツツジの咲く頃

山田 要子

分咲き。二、三日後に行けば桜は満開、でも鹿島槍ヶ岳の姿が見えず、半日位がまん強く待っても結局見えず、がっかりした年もありました。

本作品は、あきらめずに通い続けた青空の中で撮影したものです。雲と鹿島槍ヶ岳をして桜、この瞬間は何とも言えませんでした。まさに一期一会です。

冬の間にはたくさん積った雪が徐々に融けると、ミズバショウの花が顔を出し、桜の花が咲く頃には、木々は新芽を吹きます。そして、カラマツの芽吹きが鹿島の山々に映える頃を過ぎると、レンゲツツジの季節を迎えます。

遠くから見ると周りの緑に圧倒されて、撮影地では、何か咲いているようだけれども何だろうと近づくにつれて、美しい色の花が迎えてくれます。特に雨の降った後は何とも言

えず、好きな風景です。

私はここ数年、撮影地に何度も足を運んでいます。ツツジも大きく立派に成長し、周りの木々も同じ様に成長しているの、これから先、鹿島の山々と、どの様な風景を見せてくれるのか、楽しみなどころでもあります。

## 動物写真大会など参加者募集

今年もゴールデン・ウィーク期間中に山岳博物館付属園を会場に、「動物写真大会」や「動物写真展」もつと近くで見えてみよう、「付属園動物観察ツアー」、「ふぞくえんスタンプラリー」など様々な催し物が開催されます。

大町公園の桜を観賞しながら、ご家族でぜひ博物館や付属園にお出掛けください。（開催日・開催時間など、詳細は広報やホームページをご覧ください）

## 「動物写真大会」「動物写真展」の日程

■日時 4月28日(土)～5月6日(日)

午前9時～午後4時30分まで

■会場 写真大会は博物館付属園、動物写真展は博物館講堂で開催

■対象 園児から小・中学生まで

■参加費 無料

■持ち物 水彩絵具やクレヨンなど写生用具

■申込み 事前の申込みは不要です。

■その他 当日博物館窓口で受付を行ってください。

博物館より画用紙と画板をお渡しします。

■問合せ

山岳博物館

TEL・有線 二二一〇二二一

## 山と博物館 第57巻 第3号

発行 二〇一二年三月二十五日発行

〒388-0002 長野県大町市大町八〇五六一

市立大町山岳博物館

TEL 〇二六・二二一〇二二一

FAX 〇二六・二二一〇二二二

E-mail sanpaku@city.omachi.nagano.jp

URL http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

印刷 株式会社 奥村印刷

定価 年額一、五〇〇円(送料含む) (切手不可)

郵便振替口座番号 〇〇五四〇一七 一三二九三